

図書館たより

号数 第61号
 発行日 昭和58年8月1日
 編集行 島根県立図書館
 松江市内中原町52
 TEL (0852) 22-5725
 印刷 渡部印刷株式会社

設置場所 阿須那公民館
 口羽公民館
 担当者 三次和二
 貸出期間 14日間
 藏書冊数 1,350冊
 図書購入費 30万円(58年度)

県下に読書機運が高まる中で、羽須美村では3年前から読書普及を、家庭教育学級の中でとりあげてきました。今年度から県立図書館から本を3千冊余り借りて、図書センター運営を計画し、6月オープンしました。

現在公民館は分館等を含めて6カ所にありますが、人員配置をしている所は阿須那公民館で、図書分館として口羽公民館を考えました。これからどのように運営するか、まったく初めての計画のため、先進地である横田町、佐田町の御協力を得て視察させていただきました。その結果をふまえて元教職者10数名で図書運営会議を開催して、基本的な事項を決定してきました。現在ある蔵書が全く整理されておらず、基本的なラベルの張りかえ、原簿整備などを行いました。カードはブラウン方式で整理しました。また、県からの3千冊余りの本のチ

新図書センターの横顔・羽須美村



エック、書棚設計、公民館の改良等、基本事務に延べ50人の動員が必要でした。まがりなりにも図書センターとしてオープンしたのですが、今後は貸出の研究をしていかなければならぬと思います。

特色は、まったく人員配置のない口羽公民館で毎週金曜日12時から6時までボランティアの人に、図書事務を交代でしていただく事です。これからの社会教育は、人を待つ時代に終止符をうち、前向きに出ていく事を計画しなければなりません。また公民館でいろいろ事業を計画し、そこに村民一人でも多く来ていただき、実際本の置いてあることを皆さんに自らの耳手、目、足で知っていただきたいと思います。各集落ごとの団体貸出や、保育所に於ける親子読書普及をすすめるテーマを“生涯教育に係る本の役割”として人口一人あたり1冊の読書を目標に予算化、本選定を行っていきます。

今や、テレビ等による多様化社会で、読書をどのように生活の中に定着させるかが今後の課題です。



松江市青年センター児童図書室

松江市青年センター児童図書室は、「橋南にも図書館を!」、という子ども達の熱い希望から、昭和50年10月に、宍道湖畔にある青年センターの一部屋を改装してオープンしました。

57年3月末現在の蔵書10,038冊、登録者数1,583人、貸出冊数21,653冊でした。

開館時間は、日曜日～木曜日が午前9時～午後5時。(12時～1時まで休み) 土曜日は午後1時～5時。

休館日は、毎週金曜日、祝日、振替休日です。さて、当図書室の活動として、最初に挙げられるものに、53年12月から始めている「おはなしのじかん」があります。これは、毎週木曜日、午後3時30分から4時まで、幼児から小学校低学年を対象に、紙芝居、絵本の読み聞かせ、おはなし、なぞなぞなどをする時間です。動機は、それまで年1回か2回特別行事として、クリスマス会や七夕祭をしていましたが、人手不足のため準備が大変でした。そこで限りある時間内で、2人で出来て、子どもと本を結ぶ何かがないかと思案していたところ、53年夏頃、「ここで、おはなしのじかんをされませんか」と言って下さる方があり、私達はこれだとばかり、早速計画し、この年の12月に第1回目のおはなしのじかんを開き、今に至っています。この間、対象を幼児・幼稚園児と小学生に分け2部制にしたりしましたが、どうもうまくいかず、55年1月から今のスタイルに変え、現在ではすっかり定着しています。そしてメンバーも外部から3人有志の方が来て下さい、昨年のクリスマス会では久々の大作——人形劇「12のつきのおりもの」、をすることができました。次に、利用者へのサービスとして、今年4月から「としょしつだより」を月1回発行しています。

この「としょしつだより」には、おやすみの日、おはなしのじかんの日程、前月の統計(貸出冊数、登録者数など)の他に、その月の季節感行事等にそつてテーマを考え、本を紹介する欄を設けています。例えば、4月は創刊号でしたので利用案内、5月は「ほんはたのしみ」というテーマで年令別に25冊の本を紹介。そして6月は「雨の日もたのしい」というテーマで、雨に関する本を自然科学、文学、絵本などの角度から選び展示しています。

また、子どもの行動範囲が3キロ以内ということを考えると、やはり身近に「本のある場所」がほしいものです。当図書室の利用者をみても、白潟、雑賀、乃木地区の子が7割位を占めています。そこで松江市全域にサービスをするため、遠隔地の子どもに対し、地域の公民館が拠点となって読書活動をしていただるために、51年度から館外活動をしています。今年度も、5館の公民館に対し絵本を中心に200冊の本を貸出しています。

もう一つ、子どもの最も身近なお母さんの意識を啓発するために、「お母さん教室」を開催しました。子どもの本や親としての方を勉強していただこうというねらいからです。参加者は昨年が106人、今年が140人とたくさんの方に来ていただきました。

最後に、よく貸出しに出る本の傾向を述べてみます、ここ3、4年の傾向そして登録者が低年令化しているためか、ドリトル先生シリーズ、赤毛のアンシリーズ、自然科学の本などが出てなくなったりに、絵本、料理の本、チャンピオンスポーツ教室、文学では、江戸川乱歩、マガーカ少年探偵団などがよく読まれています。

さて、児童図書室ができて今年で8年目を迎えた。私達は本を通して、子どもの精神がより豊かに育まれるように、心と頭を尽くして働くなければいけないと感じています。

新刊案内

—昭和58年度 新着読書会用図書—

読書会用図書の利用をどうぞ

集団で読書することで仲間関係の和を深め、話しあうことで他の本の情報交換にもなります。
当館では同一図書10~15冊を1セットにして、読書グループの活動にテキストとして2ヶ月以内を期限に貸出しを行っています。内容は児童書、教養書、文学書にわたり277セットを整備しています。

下記の図書は、昭和57年度に購入したセットです。各職場、サークル等で読書会をはじめてみませんか。

お問い合わせは 島根県立図書館管理課普及係 TEL 0852-22-5730

一般・教養書

書名	著者名	出版社	冊数
贈られた眼の記録	曾野綾子	朝日新聞社	15冊
私の台所	沢村子子	朝暮しの手帖社	15冊
不平不満症候群	斎藤貞茂	ブックマント社	15冊
ボケとつき合う	早川一郎	現代出版社	15冊
積木くずし	穂積隆信	桐原書店	15冊
学問の発見	広中平祐	佼成出版社	15冊
日本人の心情	山折哲雄	日本放送出版協会	15冊
我が愛 流れと足跡	石垣綾子	新潮社	15冊
妻たちの思秋期	斎藤茂男	共同通信社	15冊
功大好き	木村梢子	講談社	15冊
女優貞奴	山口玲子	新潮社	15冊

一般・文学書

黄昏記	真野さ綾子	ミネルバ書房	15冊
戒老録	曾野上圭	祥伝社	15冊
本覚坊遺文	井神圭綾	講談社	15冊
修羅の春 吟香と劉生	三上山	芸術研究社	15冊
青い棘	浦井圭綾	社会会員	15冊
大地の女たち	三向山	作家研究協会	15冊
愛子いとしや	向川口	習の研究協会	15冊
わが夫新田次郎	川藤原	春潮社	15冊
鬼龍院花子の生涯	宮尾田	芸芸春潮社	15冊
炎熱商人	深石田	文月社	15冊
その愛は損か得か	郷飯杉	新文月社	15冊
女の生きかた	飯山村	大英書店	15冊
自決	柳松尾	集毎光書社	15冊
人間紀行	大木尾	角川日新書	15冊
小説日蓮	山村田	の川日新書	15冊
ひごばえの歌	柳下	作家の日新書	15冊
時代屋の女房	木松尾	角川新書	15冊
序の舞(上・下)	木田尾	朝日新書	15冊
風をください	木田尾	聖闇英談社	15冊
あらあらかしこ	木柳	邦葉公竜論社	15冊
マリコ MARIKO	柳萩	新海央社	15冊
万華鏡	柳俵	中華賣社	15冊
四十代の幸福	柳原	海潮社	15冊
母ちゃんの黄色いトラック	柳裕	新婦と生活社	15冊
チョッちゃんが行くわよ	柳朝	主婦と生活社	15冊
父犀星の秘密	室生	毎日新聞社	15冊
寂庵淨福	瀬戸内寂	文化出版社	15冊

県下にひろがる読書会（1）

子ども読書会「スパンク」—東出雲町—

- 所在地 東出雲町下意東 意東公民館
- 指導者 高倉俊子 新見淑子
- 会員数 8名（中学1年生）

「スパンク」という愛称は少女雑誌の漫画の主人公からとりました。おっちょこちょいですが、大変人に愛される犬の名前です。メンバーで決めました。

読書会が生まれるのには二つのタイプがあると思います。本を読むことが好きな同志が集まって結成されるものと他の目的のために読書を手段として利用するものとです。

このグループは当初公民館活動の子ども手作り教室の会員の中の仲良しグループで、マスコット人形を作ったり折り紙をして楽しんでいましたがお母さん達の読書会を見て、自分達もと昭和55年に発足しました。55年度は月1回の定例会でグループ作りに

力を入れ、読書と並行して、地元のおばあさん達からお手玉、姉様人形、宮参り袋作りを習い昔の話を聞きました。56年度は意東公民館が新築され、待望の美しい図書室もでき月2回と定例会も増しました。グループ日記の記入、かみしばい作り、古墳の見学ピクニック、県立図書館見学と戸外にも出かけ、図書室のカードの整備、書棚、窓の掃除等図書室を利用する人々のための奉仕作業もやりました。57年度は引き続き日誌の回覧とこのまとめ4部も作りました。調理実習、手芸、ピクニック、図書の奉仕作業も積極的に行ない、3年間のまとめとして終期に可愛い手作り絵本を作りました。3月末には子ども達主催の手作りパーティーで大人の関係者が招待され、3年間の総まとめで楽しみました。

しかし現在は会員も中学生となり、学校生活が多忙のため時間的に集まることが困難となったので定例会は中止しています。今後は休暇等を利用して何らかの形で続くことを関係者は望んでいます。

NEWS

●昭和58年度島根県公共図書館協議会開催

去る5月19・20日の両日飯石郡三刀屋町農村環境改善センターを会場に開催された。主なものは次のとおり

○昭和58・59年度の新役員が次のとおり選出された。

会長 島根県立図書館長 林 昭二
副会長 浜田市立図書館長 今田信雄
監事 仁摩町立図書館長 門崎 清
同 東出雲町教委教育長宮廻勝重

○昭和58年度事業決定の中から

例年実施している職員研修事業の中に、今年度から新たに県外読書施設の見学研修を行うことになった。従来は県内の関係者がつどい、その都度テーマを選び研究を深めていたが、今後は県外に目を向け、活発な図書館活動を行っている施設を見学し担当者から直接説明を受け、これからの図書館運営や奉仕活動に生かすことを目的とするも

のである。

○図書館等読書施設職員の表彰式

今年度は、元出雲市立出雲図書館、熊谷暢二氏など3名に対し表彰状と記念品が授与された。

●春季子どものつどい開催

5月8日(日)県立図書館集会室において実施。今回は、小学校高学年を対象に「松江城物語」のお話、郷土を知る本の紹介、映画鑑賞といった内容で約100名が参加した。

●人事異動

出向

安部富男（教育委員会福利課へ）

新任

吾郷信夫（商工労働部通商観光課から）